

令和5年度 山梨県立大学教職員表彰 対象者

山梨県立大学では、平成22年度に「学長表彰」の制度を設け、教育・研究や社会貢献等で特色ある顕著な業績を挙げ、大学の発展に貢献した本学教職員に対し、毎年表彰を行っております。

具体的には、次のような活動で顕著な功績があった方々を表彰の対象としています。

1. 職務上特に顕著な功績があった者
2. 法人の名誉を高める行為を行った者
3. その他特に他の教職員の模範として推奨すべき功績があった者

令和5年度は、以下の8名を表彰いたしました。

【優秀教職員賞(敬称略)】6名(教員6名・職員1名)

- 国際政策学部 総合政策学科 准教授 任 君三

韓国のハンバツ大学との持続的な学生交流をはじめ、令和6年度より実施するグアム大学及びハンバツ大学における短期語学プログラム(英語・韓国語)の推進に主導的な役割を果たしている一方、令和5年度の学部入試企画委員会の委員長として基幹業務である入試業務の円滑な企画と運用に大きく貢献している。

- 国際政策学部 国際コミュニケーション学科 准教授 大村 梓

令和5年度の学部将来構想委員会委員長、カリキュラムWG委員長、学部教員委員会委員、研究倫理審査会委員など学部の基幹業務の多くに参加し、学部及び国際コミュニケーション学科の円滑な運用に大きく貢献している一方、令和6年度より実施するStudy Abroad Programsなど国際交流の推進に主導的な役割を果たしている。

- 人間福祉学部 人間形成学科 教授 村木 洋子

コロナ禍で実施できなかった「子育て支援フォーラム」を4年ぶりに開催し、村木教授本人の独奏曲の演奏や非常勤講師2名との連弾アンサンブル、卒業生2名によるフルートやヴァイオリンの演奏、学生の合唱など、全ての企画・調整・運営を担当した。開学時から文化芸術振興活動として実施している本フォーラムにおいて、音楽芸術振興活動を長年に渡って支えてきた功績は大きい。

- 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授 高木 寛之

社会福祉学において中核的領域である地域福祉を専門とし、県内外、特に県内で多くの社会福祉協議会など地域福祉の実践の場とのかかわりを持ち、その推進に寄与すると同時に自身の研究論文にも結び付けている。さらに教育においても、座学だけでなく、

少子高齢化の社会変動の中で変わりゆく実践の場とのかかわりをもつことを大切にして、学生が実践活動に参加できる環境を積極的に準備している。学内においては、全学入試委員長および学部入試企画委員長、人材育成センター運営委員、福祉コミュニティ学科新カリキュラムのソーシャルワーク実習Ⅲの責任者等、重責かつ膨大な業務を担っている。実践、研究、学内業務に真摯に向き合う姿は模範的であり業績も顕著である。

● 看護学部 看護学科/大学院 看護学研究科 准教授 渡辺 かづみ

令和4年度からは看護学部の防災に関する検討会リーダーとして、学部全体の状況を踏まえた防災マネジメントの活動に勢力を注いでおり、令和5年度は特に、学生防災サークルを立ち上げ、学生主体の防災活動の推進に取り組んだ。そのサークルの活動は今年度、学生表彰された。また、令和6年度から、教授として採用されることから、更なる大学への貢献が期待できる。

● 看護学部 看護学科 講師 茅野 久美

平成27年度から、本学看護学部に勤務し、実習助手、助手、助教を経て、令和5年度より現職である。令和3年度から看護学部入試委員として入試準備、運営に携わり、今年度は、入試運営において課題が多い中で、前期入試においてリーダーを担い、円滑な入試が実施できるよう尽力した。現在、博士後期課程でエイジズム軽減の促進に向けた研究を深めながら、高齢者看護における倫理について一貫したテーマで臨床との共同研究にも積極的に取り組んでおり、今後の活躍が期待できる。

● 看護学部 看護学科/大学院 看護学研究科 助教 武田 真弓

令和2年度より本学に状況として就任し、学部教育、大学院 CNS コースでの実習指導に携わっている。学部入試委員として、令和4年度には、前期入試実施リーダー、令和5年度には後期入試実施リーダーを担い、安全、確実な入試に貢献している。令和3年より博士後期課程に学び、循環器疾患を有する人への看護を探究している。次年度は、講師への昇格も決まっており、更なる活躍が期待できる。

● 事務局 学務課 課長 野中 浩

学務課長として大学院人間福祉学研究科の開設準備に携わり、令和6年度に全国初の「子ども虐待に対応する人材養成課程」として開学できたことへの功績は大きい。また、本学プロパー職員のリーダー的存在であり、周囲からの信頼も厚く、今後の更なる大学への貢献が期待できる。